

機能的ディスペプシアは各種検査にて症状の原因がみつからないにも関わらず、慢性的に腹痛、胃もたれなどを呈する機能的な疾患です。特徴的な症状としては 食後のおなかがはる感じ（腹部膨満感）、少し食べたあとの満腹感、みぞおちあたりの痛み（心窩部痛、胃痛）があげられます。しかし、実際の症状は様々で、診断・治療が難しい病態です。

## 大事なこと

- ✓ 機能的ディスペプシアを疑う症状がある場合は医療機関を受診する。
- ✓ 症状の原因になりうる他の疾患がないかどうか、医療機関で検査を行う。
- ✓ ピロリ菌感染をきたしている場合はピロリ関連ディスペプシアとして取り扱う。
- ✓ 規則正しい生活、適度な運動、食事内容の改善、禁煙等を行う。
- ✓ 不安やストレスの原因を解消、緩和するように心がける。
- ✓ 症状によって内服薬を使い分ける。
- ✓ 内服薬の治療効果判定は2～8週間程度で行い、症状が軽快したかどうかで判断する。
- ✓ いったん症状が落ち着いても再燃することもある。

- ・日本人の有病率は健診受診者の11%～17%。
- ・上腹部症状の訴えで医療機関を受診した方の45%～53%に機能的ディスペプシアあり。
- ・日本での罹患頻度は欧米と同じくらいかやや低いくらい。

## 【機能的ディスペプシアの原因】

感染性胃腸炎後、女性、若年、不安、ライフスタイルの乱れ、などが原因の可能性はある。

※ 他にも遺伝、幼少期の虐待などの報告があるが、一定の見解は得られていない。

## 【機能的ディスペプシアの症状】

食後のおなかがはる感じ（腹部膨満感）、少し食べるだけで満腹感がある。

みぞおちあたりの痛み（心窩部痛、胃痛）、灼熱感（あつい感じ）がある。

吐き気、胸やけ、げっぷ ※ 嘔吐を伴うことはまれ。

しかし、実際の症状は様々。みぞおち・胃のあたりのおなかの症状がある場合はこの疾患の可能性あり。

## 【機能的ディスペプシアの治療】

- ① 生活習慣改善、食事療法、禁煙指導  
※ 睡眠の確保、規則的な食事、野菜の摂取、高脂肪食・満腹・飲酒・コーヒー摂取を避ける。
- ② 胃酸分泌抑制薬：プロトンポンプ阻害薬、H2 ブロッカーなど  
※ 機能的ディスペプシアに対しての保険診療は認められていない。
- ③ 消化管運動機能改善薬：アコファイド など。  
※ 消化管運動を促進させるのみでなく、調整をしてくれる。
- ④ 漢方薬：六君子湯 など。  
※ 胃適応性弛緩の改善効果、胃排出促進効果、食欲亢進作用などがある。
- ⑤ 抗うつ薬、抗不安薬：効果を認めることがあるが、長期にわたる有用性は不明。